

「ICT を活用した歩行者の移動支援に関する勉強会」(第 4 回、第 5 回)について
(国土交通省 政策統括官付参事官室)

国土交通省では、ICT を活用した歩行者の移動支援施策を一層推進し、今後の方向性について検討を行うため、昨年 9 月より小泉国土交通大臣政務官の主宰の下、「ICT を活用した歩行者の移動支援に関する勉強会」(座長：坂村健 東京大学大学院情報学環教授)を設置し、議論を行っています。

この度、これまで本勉強会において議論されてきた歩行者移動支援システムについて、平常時のみならず、災害情報との連携等による災害時への活用方策について検討を行うため、第 4 回、第 5 回勉強会が開催されましたのでご紹介させていただきます。

【第 4 回勉強会(6 月 3 日開催)について】

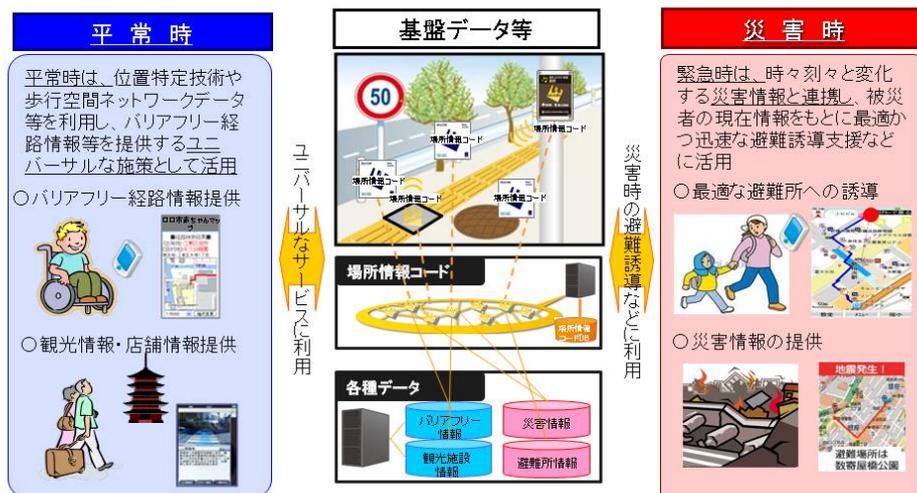
第 4 回勉強会では、平常時におけるユニバーサルサービスへの活用に加え、災害情報との連携による避難誘導支援や避難者の移動履歴の把握等への活用方策について議論がなされました。

具体的には、一般利用者(歩行者等)を対象とした活用メニュー(「災害の状況に基づく避難誘導支援」、「場所情報を用いた移動履歴情報の把握」、「災害時の警戒区域情報の提供」、「地域のハザード情報を活用した防災意識の醸成」)及び、施設管理者を対象とした活用メニュー(「施設に関する被災情報の共有化」、「場所情報コードを用いた土地境界情報の管理」)について議論がなされました。

4) 歩行者移動支援システムの災害時への活用検討



歩行者移動支援システムは、平常時は位置特定技術や歩行空間ネットワークデータ等を活用し、バリアフリー情報を提供するユニバーサル施策として活用。一方、災害時には、災害情報と連携し、避難誘導支援や避難者の移動履歴把握等への適用が想定される。



第 4 回勉強会資料(抜粋)

【第5回勉強会(6月20日開催)について】

第5回勉強会では、第4回勉強会での議論を踏まえ、災害時における移動支援の活用事例に関するヒアリングを行いました。

具体的には、愛媛大学二神准教授から「津波災害を対象としたリスクコミュニケーション的考察」として、住民でも容易に避難行動シミュレーションが可能な避難計画支援システムや、それを活用した愛媛県西予市明浜俵津地区での避難訓練の結果などについて紹介された。

また、宇宙航空研究開発機構の高畑氏から「通信衛星と場所情報を用いた避難者の移動履歴把握に関する取組」として、鹿児島県の防災訓練で行われた通信衛星とICタグを利用して住民の避難状況等を把握する取組や、通信衛星を通じて車や船舶の位置を逐次収集し、移動履歴を把握する取組について紹介されたほか、東日本大震災で通信が遮断された大船渡市などへの通信衛星回線の提供について紹介された。

ヒアリング後の意見交換では、勉強会委員から「平常時からの活用を想定したビジネスモデルの重要性」や、「災害時のシミュレーションとDIG(災害図上訓練)の組合せはニーズが高く、現地で情報がとれるよう携帯端末でも使えるようにすることが必要」、「通信衛星や場所情報コードは、避難者の居場所等の情報を集約するためにも有効であり、今後の政策展開を検討することが必要である」などの意見があった。

更に、災害時における地方自治体での取組や被災地でのICTの利用に関するアンケート結果について勉強会委員より紹介された。

なお、会議資料及び議事概要は、勉強会ホームページに掲載しています。

【「ICTを活用した歩行者の移動支援に関する勉強会」ホームページ】

http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/seisakutokatsu_soukou_fr_000002.html

【問い合わせ先】

国土交通省 政策統括官付参事官付 TEL:03-5253-8794



第5回勉強会(H23.6.20開催)の様子